



CONTENTS

* 英文校閲助成

* カモミール月曆

* 新室員ご挨拶

* サイエンス夢追い人育成プロジェクト

* 室員インタビュー



文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」

英文校閲助成

2015（平成27）年度に採択された「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」事業の一環として、女性研究者の研究力向上を目的に、学術雑誌への論文投稿に必要な英文校閲費を助成します。

< 申込期間 >

2020年6月15日（月）～ 2020年12月頃



< 応募資格 >

岐阜大学に所属し、国際誌に英語論文を投稿する女性研究者。研究分野は問いません。ただし、原則として投稿する論文の筆頭著者であること。

< 助成金額 >

1件につき3万円を上限とする。ただし、予算の関係上、申込多数の場合は受付順を考慮のうえ減額する場合があります。

< 助成対象 >

2020年6月15日から2020年12月31日の期間内に学術雑誌（Web of Science Core Collection登録誌に限る）への投稿用論文の英文校閲を行い、納品および委託業者への支払いが完了するもの（申し込み以前に支払いが完了しているものを除く）。

申請は1人につき1件とし、他の外部資金（科研費など）を持たない者に限ります。

応募方法などの詳細は、男女共同参画推進室WEBでご確認ください。

<https://www1.gifu-u.ac.jp/~sankaku/>

カモミール月暦 (室長からのメッセージ)

副学長(多様性・人権・図書館担当) 林 正子

「次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画」

皆さんは、「次世代育成支援対策推進法」をご存じでしょうか？

2005年4月1日に施行された「次世代育成支援対策推進法」は、次世代の社会を担う子どもたちが健やかに生まれ育成される環境を整備するために、国・地方公共団体・事業者・国民が担う責務を明らかにした法律です。2015年3月末までの時限立法でしたが、2015年4月1日の法改正により、**2025年3月31日まで10年間延長**されました。

この法律のもと、大学も教職員の仕事と子育てに関する「一般事業主行動計画」を策定し、その内容を各都道府県の労働局に届け出ることが義務とされています。岐阜大学も名古屋大学とともに「**国立大学法人 東海国立大学機構**」として、**教職員の仕事と子育ての両立を推進**するとともに、**職場全体のより働きやすい環境**を作るため、「次世代育成支援対策に関する行動計画」を次のように策定しました。

計画期間：2020年4月1日から2025年3月31日までの5年間

目標1：ワーク・ライフ・バランスを推進するための職場環境の改善に努める。

(対策)

- ① 学内保育所の運営
- ② 学内学童保育所のプログラムの充実に努める。*
- ③ 大学入学共通テスト等、土日勤務の際の育児を支援する。*
- ④ 昼休みを利用した介護相談会を実施する。*
- ⑤ ベビーシッター割引制度による育児支援を行う。
- ⑥ 授乳室、休憩室、トイレの育児設備(おむつ交換台・チャイルドシート)の整備等、職場環境の改善に引き続き努める。
- ⑦ 多世代が交流できる空間の確保について検討する。

目標2：ワーク・ライフ・バランスを推進するため、時間外労働の縮減、年次休暇取得の促進等を図る。

(対策)

- ① さらに業務の合理化・効率化の推進を行う。
- ② ノー残業デーや超過勤務縮減推進月間の設定、午後5時15分以後の会議開催の原則禁止
- ③ 計画的な年次休暇の取得促進を図るため、取得計画表の作成を徹底する。
- ④ 夏季休暇(8/13~8/16までのうち大学が定める2日を年次休暇以外の休暇として附与)と年次休暇を利用した連続休暇の取得を促す。
- ⑤ 管理職が率先して年次休暇を取得するよう努めるとともに、年次休暇を取得しやすい雰囲気醸成する。
- ⑥ ライフイベント(育児・介護)期間中の教員については、授業担当、研究以外の委員会業務等を軽減又は免除する。
- ⑦ 病児保育については、運用状況を検討しつつ、利用方法等を改善していく。
- ⑧ 単身赴任中の教員については、授業、会議等の時間帯に配慮する。
- ⑨ 職員、特に管理職の意識改革に向けて効果的な研修会等を実施する。
- ⑩ 男性の育児休業率を高める。
- ⑪ 業務の見直し及びICTの活用等を進め、テレワークの導入を検討する。

目標3：ワーク・ライフ・バランス推進支援に関わる情報を積極的に発信する。

(対策)

- ① 各種休暇制度、育児休業手当金、勤務制限、地域の保育サポート情報等を積極的に発信する。
- ② 育児・介護等に関する相談体制についての情報を発信する。
- ③ 育児休業、育児短時間勤務制度利用者の代替要員の補充ができることを広報する。
- ④ 構成員に対し育児休業取得促進や長時間労働の縮減に向けて意識改革を促す。
- ⑤ 介護に関わる情報を発信する。

「目標1」の*を付した3項目については、名古屋大学において先行実施されている事項です。両大学は、通勤手段や居住地の地域性が異なるため、一律に学童保育を実施という段階にまで至っていませんが、岐阜大学においても、今後、現状分析の上、適切な対応を検討することが求められています。構成員の皆さまにおかれましては、この機会に、「**男女共同参画推進行動計画**」「**多様性人材活力推進計画**」「**女性活躍推進法に基づく行動計画**」の各行動計画につきましても、**岐阜大学男女共同参画推進室のホームページ** <https://www1.gifu-u.ac.jp/~sankaku/> にてどうぞご確認ください。

新室員ご挨拶

田澤 晴子 教育学部（社会科教育）准教授

岐阜大に赴任してから7年になります。生活と仕事のバランスを取ることは難しいことですが、在宅勤務の多い今は、改めて生活と仕事の両輪により人生が成り立っていることを感じています。微力ながら豊かな人生を送るためのお手伝いをさせていただきたいと存じております。

安藤 香織 工学部（化学・生命工学科）教授

就活をしていた若い頃は「女性はいらぬ」と言われた世代です。結局、差別の少なかった沖縄にある琉球大学教育学部に就職して研究を一人で行い、13年前に岐阜大学工学部に採用となりました。女性の就職が容易になった今、女子学生に頑張ってもらいたいと願っています。

サイエンス夢追い人育成プロジェクト

女子大学院生による出前講義

「サイエンス夢追い人育成プロジェクト」は、女性研究者の育成および裾野拡大を目的に、女子大学院生が県内の小中高校に赴き、これまでの進路選択における経験や研究内容について講義をおこなうものです。本プロジェクトでは、これまでに岐阜県内の小中高校のべ64校にて145回 実施し、のべ11,796名が受講しています。男女共同参画推進室では、今年度も引き続き本プロジェクトを実施しますので、ぜひとも身近な女子大学院生さんに本プロジェクトをご紹介ください。

< プロジェクトのねらい >

●大学院生にとっては

- 教育経験を通して、自らの研究内容や社会的意義を見つめ直すことで、研究に対する意欲の向上、キャリアアップを促進します。

●小中学校・高等学校の生徒にとっては

- 大学院生との交流を通して、大学や科学に対する興味や関心を喚起します。
- 身近なロールモデル（行動のお手本）である女性研究者の存在を知ること、進学意欲を高めます。

< 参加した女子大学院生の声 >

- これまでは、研究内容に対して事前に理解や知識がある人に対してしか、発表の機会がありませんでした。決められた時間内で、あまり詳しくない人に対し、いかに内容を絞って的確に説明するか、ということに注意を払って準備することができ、より聞く側の立場にたって内容を考えることができました。
- スライドの作り方や講義の流れについて、色々な指導を受けたことで勉強になりました。今回の講義を通して、プレゼンテーション能力を少し上げることができたと感じています。この活動に参加して、本当に良かったと思います。

室員インタビュー

「その挑戦がいつかあなたの強みになる」

医学部看護学科 今田 葉子 准教授

聞き手：落合絵美 特任助教（男女共同参画推進室）

このコーナーでは、男女共同参画推進室員のキャリア形成やワーク・ライフ・バランスなどについてご紹介します。

幼少期に父親を病気で亡くしたことをきっかけに医療の道を志した今田先生。大学卒業後に就職した大学病院ではやりがいを感じつつも慌ただしい毎日を送っていましたが、「看護とは何か」を改めて考えるようになり、大学院への進学を経て母性看護学の研究者としてのキャリアを積み重ねてきました。

現在は、看護師・助産師を目指す大学生の教育および思春期から更年期女性の健康・看護に関する研究に取り組んでいます。

子どもの誕生を機に出身地である岐阜に戻り、1歳の子どもを預かってくれる保育園をなんとか見つけて研究者としてのキャリアを再スタートしましたが、仕事と育児を両立するために全力で走り続けるなかで体調を崩し、改めて健康の大切さを実感するとともに働き方を見直す契機になったそうです。

新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う大学閉鎖期間を終えて6月からキャンパスに学生たちの賑わいが戻ってきましたが、忙しい日々のなかでも学生の笑顔を見ると自然とエネルギーが湧いてくる、とのこと。「私の経験がいつか学生たちの役に立てば嬉しい」との思いから、授業ではご自身のワーク・ライフ・コンフリクト（仕事と生活の葛藤）を含む様々な経験について積極的に学生に伝えているそうです。

< 今田先生からのメッセージ >

やりたいことがあればぜひチャレンジしてください。
その経験がいつかあなたの強みになります。



< 今田先生の「あったらいいな」 >

各種支援制度（例：研究補助員配置制度）は、教育・研究と育児・介護を両立するために多忙を極める研究者にとって貴重な制度。他方で、制度に応募するための書類を作成する時間もないくらい忙しい時期もあります。制度を必要とする人のためのサポート体制や仕組みがあれば、より効果的に支援できると思います。